授業科目名（講義題目）	コーポレート・ガバナンスと監査		開講学期 単位数	後　期 2単位
担当教員	岩崎　　勇	講義コード 16176035	科目区分 対象学生	選　択 1・2年生
履修条件	特になし	キーワード	コーポレート・ガバナンス，監査、内部統制、西洋・東洋思想・哲学と倫理・ガバナンス	
全体の教育目標	・コーポレート・ガバナンスの意義と機能の理解 ・監査の意義と機能の理解 ・西洋・東洋思想・哲学と倫理・ガバナンス	個別の学習目標	・コーポレート・ガバナンスと監査の必要性と基礎理論 ・米国等での取り組みの理解 ・西洋・東洋思想・哲学と倫理・ガバナンス	

授業の概要

まずコーポレート・ガバナンスについての背景を探り、その必要性を知る。次にコーポレート・ガバナンスに関する基礎理論を学習する。さらに米国・英国・ドイツ・日本のコーポレート・ガバナンスについての取り組みを検討する。また、日本の法的な制度としてのガバナンスの型を近年導入された米国型を含めて検討し、これからの監査のあり方を検討する。そして、西洋・東洋思想・哲学と倫理・ガバナンスについての議論を行って行く。

授業の進め方

コーポレート・ガバナンスや監査に関する基礎理論の検討の他に、これらのケース・スタディーやディスカッション等を行う予定である。予習課題に加えて授業中に追加課題を提示することもある。

教科書および参考図書

(参考書)
奥島孝康監修『企業の統治と社会的責任』 金融財政事情研究会
関孝哉『コーポレートガバナンスとアカンタビリティー』
中央青山監査法人経営監査グループ『コーポレート・ガバナンスと経営監査』東洋経済新報社
経済企画庁経済研究所編『日本のコーポレート・ガバナンス』
深尾光洋『コーポレート・ガバナンス入門』ちくま新書
稲上毅・連合総合生活開発研究所編著『現代日本のコーポレート・ガバナンス』東洋経済新報社
京都学園大学ビジネスサイエンス研究所編『コーポレート・ガバナンスの多角的研究』同文舘
若林政史『日本的経営とガバナンス』中央経済社
金元朱『経営倫理論』大阪経済法科大学出版部
菊池敏夫、平田光弘編著『企業統治の国際比較』文眞堂
伊丹敬之『人本主義企業』
加護野忠男、小林孝雄「資源拠出と退出障壁」今井賢一、小宮隆太郎編『日本の企業』
吉森賢『日米英の企業経営』放送大学教育振興会
日本コーポレート・ガバナンス・フォーラム編『コーポレート・ガバナンス』商事法務研究会

試験・成績評価の方法等

授業への貢献度	50%
レポート・小論文	50%